

令和2年度 第2回高知県スポーツ振興県民会議

地域スポーツ推進部会 議事要旨

日時:令和2年10月28日(水) 9:30~11:30

会場:高知県立人権啓発センター 6Fホール

出席:部会員11名が出席(別紙のとおり)

議事:(1)令和2年度スポーツ施策の進捗状況について

(2)スポーツ振興の強化ポイントについて

(3)その他

1 開会

2 議事

(1)令和2年度スポーツ施策の進捗状況について

●事務局から議事(1)の説明を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

(谷部会員)

○スポーツJAMフェスタは非常に良い取り組みだと思う。いつからこの取り組みを行っているのか。また、参加人数はどのくらいで推移しているのか。今後の展望についても教えていただきたい。

(三谷スポーツ課長)

●スポーツJAMフェスタは昨年度より開始しており、昨年度の参加者数は述べ2,000人であった。「誰でも参加できるイベント」として、総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進委員等にご協力いただき、様々な企画を実施した。今年度は新型コロナウイルスの影響により、人数を制限することになったが、アンケートを実施すると参加者の満足度は高かった。今後は、障害がある方も参加しやすい内容を企画させていただき、運営も大学生などに協力していただき来年度以降も取り組みを進めていきたいと考えている。

(前田部会長)

○スポーツJAMフェスタについて、高知工科大も大学生を運営に参加させた。今回については、集客に苦戦したことや、告知の方法、イベント内容に関して障害者の参加が難しいという課題がある。イベントについては他の事業者が独自でスポーツのイベントをされているが、そういった中でスポーツJAMフェスタの目標値や評価を厳しく見ていく必要がある。イベントの評価も県が行うのでは甘くなるのではないかと。

(三谷スポーツ課長)

●評価に関しては、参加者の数がまだまだ少ない。募集をかけた段階でたくさんの参加者が得られるよう、まずはスポーツ課で対策を検討し、参加者の声も参考にし、イベント内容や周知方法を工夫していき

い。障害者の参加については、障害当事者の意見も聞きながら企画してきたが、参加者の増加に繋がっていないため、呼びかけ方法などを見直していきたい。

(葛目スポーツ振興監)

●スポーツ JAM フェスタは 10 月の県民スポーツ月間に合わせて開催している。地域や学校でもスポーツが盛んに行われている時期であり、実施については周り調整し、関係者の意見も伺いながらしっかりと進めていきたい。

(武市部会員)

○スポーツ科学センターの現状や活動について教えてほしい。

(三谷スポーツ課長)

●スポーツ科学センター (SSC) は昨年 4 月に開設し、専門体力測定やトレーニング指導等をおこなっている。昨年度末からコロナの影響で活用が少なくなっていたが、今年 6 月からは昨年度並みの利用者数に戻ってきている。さらに活用していただけるように競技団体にも PR していきたい。

(武市部会員)

○スポーツ科学センターのスタッフに、地域スポーツハブの取り組みなど地域のイベントと連携していただきたいが可能か。

(三谷スポーツ課長)

●SSC を設置した目的は、県民の競技力向上と健康づくりに寄与することである。昨年度は主に競技力向上にウエイトを置いていたが、これからは県民の健康づくりに寄与するため、地域のスポーツ関係団体を含めサポートしていきたい。

(村上部会員)

○SSC の活用について教えてほしい。今年度、県の産業振興アドバイザー制度を活用し、砂浜トレーニングのメニューをつくっている。今後、モデルトレーニングの動画などを撮影し、来られたチームへのプログラムとして提供していきたいが、SSC の取り組みとどう連携できるか。また、他の地域のスポーツ団体の活用事例を知りたい。

(三谷スポーツ課長)

●こちらに、SSC を活用する具体的な内容を相談いただければ、内容によって SSC と調整し対応させて頂く。SSC に来ていただいて、様々なサポートを実施することが基本であるが、スタッフが出向いたり、リモートを活用したサポートもできる。

(葛目スポーツ振興監)

●SSC の情報発信がまだ弱いところがある。活用に関するご相談・情報をどんどんいただきたい。職員の能

力向上のためにも積極的に出向いていきたい。

(葛岡部会員)

○SSC について、何度か見学をしたこともある。SSCの利用者増加に向けてお願いしたいことがある。感覚的なアンケート結果の公表ではなく、科学的根拠に基づいたデータを公表していただきたい。そのデータを見ることによって、目標が明確となることで、競技力向上につながり、SSCを活用する利用者も増えるのではないかと。

(三谷スポーツ課長)

●データの活用は慎重にならなければならない部分もあるが、工夫をして発信していきたい。競技の特性に応じて意見も頂きながら、幅広く活用ができるよう進めていきたい。

(2) スポーツ振興の強化ポイントについて

●事務局から議事(2)を説明後、協議を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

☆ウィズコロナ&アフターコロナの社会におけるリモートによるスポーツ環境の整備

(上廣氏 戸梶部会員の代理)

○県民の健康増進の観点で考えると、資料の現状の欄にあるように、コロナの影響で日常生活における歩数が減少していることが心配である。従来の対面型のイベントなどを強化していくこととあわせ、リモートを活用したスポーツサービスの提供など、アフターコロナに合わせ、新たな角度でのスポーツサービスの提供を進めていただきたい。特に会社勤めの方は、全体的に運動量が不足しており、日常的に運動できる機会をつくっていくことが大事。

(常行部会員)

○YouTube 等でコンテンツがあるなかで、行政がリモート行うことについて、具体的な計画や高知県ならではの取り組みはあるのか。

(三谷スポーツ課長)

●まずは地域での活動として、コロナの影響により活動が制限されている障害者や高齢者など、遠方へ出向いて参加することが困難な方々が、地域の集まりやすい場所や自宅で活動ができる環境づくりを行っていく。スポーツの場面では県外の指導者と現場をつなぐことも可能となる。また、SSC では動画の発信も含めて現場とつなぐことで様々な方がサポートを受けることができる。地域スポーツハブでは、地域スポーツハブ同士が協力して一つのイベントを企画することなどが可能になってくると考えている。現場の状況も確認しながら課題を捉え改善していきたい。

(文化生活スポーツ部 山脇副部長)

●先ほどの説明を補足すると、県がリモート環境を整備するには狙いが3つある。まず、①ウィズコロナの影響で対面での教室や指導が難しい状況の改善を図る。②アフターコロナの状況になった時、従来どおりの対面指導の方法以外に、リモートによる個別指導を間に入れ、事前に課題を与えたり等、コロナ前の

取り組みと組み合わせることにより効果を上げる。③スポーツに参加することを躊躇している方々への後押しや、スポーツに参加する方々の裾野を広げスポーツの振興に繋げる。である。リモートの活用によって、コロナになる前より、ずっと効果的に良くなっているといった環境にしたいと考えている。

(武市部会員)

- 明日の午後から中央福祉保健所と高知市、南国市、香美市が連携して、健康運動士を派遣したイベントを実施する。併せてオンラインでも配信を行う。県でも情報収集してもらえればと思う。
- 運動は、単なる筋力トレーニングだけではなく、合間に(参加者同士が)会話することで心も健康になると思う。
- YouTube でまほろばクラブの取り組みとして、ある先生の教室を無料で配信をしたところ、先生から配信をやめてほしい(有料配信への影響がある)と言われた。オンラインでの配信は有料か無料かなどの問題が発生するので、今後は、試行錯誤しながら進める必要がある。

(葛岡部会員)

- リモートについては非常に良いと考える。オンラインでその場でやり取りすることはリモートでなければできない。情報の共有のためにもリモートは必要と考える。先ほど、YouTube の話があったが、こうちスポーツ NAVI の中へ、いつでも必要な動画が見られる仕組み(コンテンツ)を取り入れてほしい。また、動画編集ソフトなども使えるようにしていただけるとありがたい。
- コロナ禍で食事や運動への関心の高まりを感じる。個々のニーズに応じて必要な情報が見られるようなコンテンツをこうちスポーツ NAVI の中で増やすことも大切ではないだろうか。
- 昨今、各競技団体が違う競技の動画を見る場面が増えてきた。自分たちの競技とは違うトレーニングから多くのヒントを得られる場面が増えてきた。ぜひ、こうちスポーツ NAVI の中で他競技のトレーニングが見られるコンテンツを導入してほしい。
- コロナの影響により、中体連の陸上大会では保護者の観覧が認められなかった。そこで、カメラを用いてオンラインでの視聴を中体連へお願いしたが断られた。感覚等でオンライン配信の判断をするのではなく、オンライン配信に係る規約を作成し、活用しやすい環境を提供していただきたい。

(三谷スポーツ課長)

- リモートの有効性をしっかり捉えながら、想定してない問題も出てくるだろうが、ご意見も参考にさせていただき、今後も使いやすく効果的な活用を進めていきたいと考えている。

(文化生活スポーツ部 山脇副部長)

- 県全体の方向としては濱田知事のもと、デジタル化を促進していく。こうちスポーツ NAVI を見ればスポーツのことが何でもわかるようなものを整備していきたい。

(前田部会長)

- リモートについて、大学でも対面とオンラインを同時に行い苦労している。リモートの整備、設備の部分で支援していくとの記載があるが、実際に運用する時にテクニカルスタッフ(技術の方)がいないと問題が

起きた際に現場レベルでは対応できない場合もある。人的な部分でも考慮していただきたい。

☆地域における子どものスポーツ環境づくり

(島崎部会員)

○くろしおキッズの取り組みはどうなっているのか。

(三谷スポーツ課長)

- 現在も4年生から6年生の約60名が、年間18回のプログラムにより様々なスポーツに取り組んでいる。主として運動能力の向上を目的とした取り組みであるが、特定の競技を行っていない子どもには、中学入学後にその子の適性にあった運動部活動が選択できるようアドバイスを行っている。

(武市部会員)

○市町村のなかで、スポーツに関する受け皿がどのようなものがあるか、考えないといけない。地域を上から見て、市町村が先導できなければ、地域の団体(総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団などの民間の団体)が自発的に、地域のスポーツをコーディネートする機会を作る必要があると考えている。地域で自発的に実施する必要があるが、悩むところである。

(三谷スポーツ課長)

- 子どもから高齢者までを含めたスポーツ振興が地域毎に進められていくことが大事であると考えている。特に子どものスポーツ環境づくりの取り組みでは、地域の状況や課題を地域の関係者と共有したい。県としては、県からの投げかけではなく、地域毎に実情が異なるので、市町村の関係者の皆さまが、地域の課題を共有する中で実情を捉え、主体的に取り組んでいくことを支援していきたいと考えている。市町村とともに、運動部活動や既存の取り組みなどと関連した必要な取り組みを検討し前に進めていく必要がある。

(谷部会員)

- 参考資料2では、部活動を学校単位から地域単位の活動として進めていくと記載されているが、これまでこのような考え方はあったと思うが、実現は難しかった。今回は働き方改革の流れの中からこの考え方は来ていると思うが、非常に重要なことだと思う。
- 資料には、令和5年度から段階的に実施とあるが、令和3年度、4年度は詳細な計画を基に様々な関係機関との連携や学校、保護者の理解、地域団体の協力や環境づくりなど非常にたくさんのやるべき事があるように感じる。とりあえず、市町村にモデル校として、手を挙げてもらい、様子を見ながらスタートをさせるというだけではうまく進まないのではないかと。
- 働き方改革を踏まえた、部活動改革の協議会のような組織を立ち上げ、各関係機関と連携をとり、話し合いを進めるべきではないかと思うが、今後どのように進めるのか、展開を伺いたい。

(前田保健体育課長)

- 今年度、これからの部活動のあり方検討委員会が立ち上がったばかりだが、中体連、高体連、PTAにも

入っていただいている。高知県では地域部活動はハードルが高いと考えており、まずは合同部活動を進める方向性である。今までは合同チームがあったが継続的に同じチームが組めないなど、様々な弊害も出てきている。近隣の市町村で合同部活動の仕組みが構築され、その形で大会に参加できるようになれば、指導者の確保など段階的に課題を解決していきたい。全市町村教育委員会へのアンケートでは、合同部活動、合同チームの推進を図っていききたいとの意見があり、市町村によってはすぐに取り組みたいところもある。学校の部活だけの対応では難しい部分もあるので、スポーツ課、スポーツ協会とも連携していく。

(高知県スポーツ協会 刈谷専務理事)

- 学校の働き方改革で部活動が無くなる訳ではない。部活動を学校だけでなく、地域の方も見ていいという捉え方である。スポーツ協会としては、中・高部活動の大会への参加が校長印ではなくても、責任者の印で認められ、生徒の安全面が確保されるような仕組みづくりを競技団体と協議していきたい。

(葛目スポーツ振興監)

- 保健体育課、スポーツ協会の話と重なるところではあるが、子どもや選手から見ると系統立ったところがあり、その後を見ると複数の制度が絡んでいる。それぞれのセクションで責任を持って進めるべきことではあるが、県であればこの3者が連携をしっかりとった中で、先ほど述べられた課題を解決していくことが大切である。9月1日に文科省から出された地域部活動に係る文書では、関係者の意識変革が不可欠であると強調して記載されている。数十年も前から言われていることであり、しっかりと取り組む必要がある。平均的な対応ではなく、各地域の事情に則した高知県独自の取り組みを早急に実施しなければならない。前回の高知県スポーツ振興県民会議では、今後のスピード感をもって対応するよう提言されており、皆さまからのご意見もしっかりと取り組みに反映していきたい。

(西岡部会員)

- 教師に代わりに指導にあたる地域の指導者の処遇、身分等が大事になってくると思うが、県はどのように考えているか。

(高知県スポーツ協会 刈谷専務理事)

- 国のモデル事業で部活動指導員という制度がある。部活動指導員は市町村が委嘱し、部活動の大会への引率や週末だけでなく平日も部活動の指導ができる準公務員である。

(田中部会員)

- 障害者スポーツセンターの利用の団体・チームは、ほとんど高知市周辺に集中しており、利用者の9割以上が1時間圏内から通っている。障害者スポーツの大きな課題は、東部、西部、嶺北地域で障害者スポーツの発表の場を増やすことである。
- 現在、西部の幡多地区で陸上競技の記録会、東部ではフライングディスクの記録会を開催し、発表の機会を設けているが、障害者スポーツセンターの職員が中心となり、現地に出向き運営をしている。徐々に運営や機能を地域の中心となる方々に移行し、地域で開催できる仕組みを構築していく構想で進んで

いる。県とも相談しながら進めていきたいので、ご理解、ご協力もお願いしたい。

(三谷スポーツ課長)

- 様々のご意見に感謝申し上げます。途中の説明にもあったように、学校での部活動を無くすのではなく、部活動をさらに充実させていくという観点で、学校だけでは担えない部分をどのようにカバーしていくかということについて、県教育委員会、県スポーツ協会、県スポーツ課が連携し、より良い方向に進むよう取り組んでいく。大会への出場や指導者の確保、安心安全の担保など、解決すべき様々な課題があり、高知県だけでは解決出来ない内容もあるが、全国の動きや皆さまのご意見を参考に一つ一つ地域の実情を考慮しながら進めていきたい。

(葛岡部会員)

- 私も部活動指導員で副顧問という立場で活動をしている。地域のスポーツクラブなどが、指導者を派遣する場合、年間予算の関係で、地域の指導者数が増えると謝金単価が減ったり、指導回数が減るなど、現状の仕組みでは積極的に指導に携わりたくてもできない場合があり、やりがいがあるが損なわれてしまうことも想定される。
- また、普段の部活動の時間帯から考えると、自営業者でないとなかなか携わることはできない。会社等で勤務している者に、土日の指導をしていただくなど方法を考える必要がある。
- 何よりも、指導者にとってやりがいがある仕組みを考えていただきたい。

☆本県の特徴を生かしたスポーツツーリズムの活性化

(遠藤氏 眞田部会員の代理)

- コロナの影響で旅行の形態は変化しており、現在「マイクロツーリズム」がトレンドである。この傾向は加速するだろう。旅行先を決める基準や楽しみ方が多様化している。目的型旅行として、「スポーツ」や「体験」が重要になってくる。高知では、特色ある自然を活用することができると思う。
- ポイントは3つ。1つ目は、「ユニークな体験」が大事であり、スポーツとは違うが、文化体験ではその土地ならではのもの。スポーツだと自然体験などが切り口になる。2つ目は、「健康」で、ツアーを通して心身ともに健康を感じることが重要。自然の中でヨガや瞑想、併せて文化的な伝統や健康食品を織り交ぜることも旅の魅力が増す。3つ目は「挑戦」で旅行を通じて、心理的な「挑戦」ができることが大事。地元の方言などの言葉で会話するなどもある。実際の事例では、スポーツを切り口とした旅行商品で、宮崎県のホテルの宿泊者を対象にゴルフコースでプロからのアドバイスと一緒にプレーする旅行プランがある。高知県では「健康」をキーワードに、仁淀川でサイクリングをする個人商品ではあるが「ヘルスツーリズム」として、サイクリングをして温泉に入り健康懐石を食べるといった内容もある。

(三谷スポーツ課長)

- いただいたご意見は、スポーツの部署だけで取り組むことは難しい部分もあるので、観光振興部とも連携し、新たな資源の発掘や既存資源の磨き上げ、旅行商品のパッケージ化も含め、前に進めていきたい。そのような取り組みを通して、県外からの集客を増やすことはもちろん、県内交流事業の拡大や地元の方のスポーツ参加の拡大にもつながることと考え、しっかりと取り組んでいきたい。

(村上部会員)

○高知県として、スポーツツーリズムの視点から、サーファーの位置付けはどのように考えているか。事務所がピオスで、サーファーが多いが、ここ最近はサーファーの年齢層が上がっていると思う。20代の頃に来ていた人が40代になっても来てくれていると思われるが、逆に若い世代が来ていないと感じる。

(葛目スポーツ振興監)

●サーフィンも地域の特色を生かした取り組みということで位置付けさせていただいており、具体的にはサーフィンの高知県知事杯、昨年度は生見でサーフィンの全国大会が開催された。サーフィンについても観光コンベンション協会の助成金の対象としている。また、関西との連携という視点でも、サーフィンはより強く取り組みを進めたい。

(常行部会員)

○「関西」というキーワードでは、ワールドマスターズゲームズが関西で開催されるが、そのあたりの考えはどうか。

(葛目スポーツ振興監)

●ワールドマスターズゲームズはこれまであまり触れていなかったが、関西からの誘客という点でも戦略的に取り組んでいく。

(文化生活スポーツ部 山脇副部長)

●昨日、大阪府で関西の各方面の方がアドバイザーとして参加する会議に出席したが、関西の経済同友会代表者から、「ワールドマスターズゲームズの開催はすぐに来る。大阪万博の前哨戦となるため、高知県にどう流れを呼び込むのか、しっかりと取り組む必要がある」との意見をいただいた。スポーツの大会ではあるが、大会の参加者はご家族で観光されることが多く、旅行商品を選ぶタイミングや、発地側で選ぶのか着地側で選ぶのか四国回遊かといったことなども含め、大阪府とも協力させていただき、2年後の開催に向け取り組んでいきたい。

(3)その他

(武市部会員)

○地域スポーツハブの取り組みについては、補助金がなくなったあとにも地域で根付いていくような支援をお願いしたい。総合型地域スポーツクラブも助成金が無くなると動きが弱くなった。ぜひ、資金面ではない支援もお願いしたい。

(田中部会員)

○【参考資料2】「部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務」と書かれている。以前からの話ですが、文字で見たのは、初めてな気がする。私の認識不足かと思うが、教員時代は、言われたら顧問をしなければならいという感覚で顧問を引き受けていた。管理職になってからは、文字で

は見たことがないけれども、類似したことを聞いたことがある。しかし、少しでもそれを口にすると恐らく教員が顧問になることを嫌がるのではないかと思い、全員必ず何らかの顧問に就いてくれるよう、なかば、強制的にやっていただいたことを思い出した。

- 個人的な思いとしては、休日に部活の指導に携わることが非常に苦痛な教員もいるが、逆に教師になるにあたって教科指導は当然とし、部活動の指導に大きなやりがいを持って教員になった先生方が多くいる。それは、本人が中学、高校時代に受けた指導の中で、おそらく憧れを抱いたからである。人間性の形成等、部活動は非常に大きな働きがある。また、高等学校では、部活動の活性化で学校作りにつながっている。
- 休日に指導を行いたい先生の思いをぜひ受け入れいただきたい。

3 閉会

(文化生活スポーツ部 山脇副部長)

- 本日は熱心にご審議をいただき感謝申し上げます。現在、来年度当初予算に向け予算編成を進めており、皆さまからいただいたご意見はできる限り反映させていきたい。特に、スポーツ JAM フェスタや SSC の活動は、メディアを活用した効果的な情報発信や PR の徹底が必要であると感じたところである。本日の部会以降もお気づきの点などあれば、電話でもメールでも結構なのでご意見をいただければと思っている。